

●青山学院大学 国際政治経済学研究科**「グローバル・エキスパート養成プログラム」の事例 <人社系>****具体的に何を実施したのか**

当プログラムが狙う国際社会の発展に貢献できるグローバルエキスパートの養成を組織的に実施するために必要な科目群をグローバルエキスパートプログラムとして新設した。具体的には、本研究科は3専攻からなっていたが、これを横断する形で、理論分野と実践分野に分け、理論分野では国際社会学・国際公共政策・国際機構論等を開講し、実務家担当課目として国際平和協力論、国際人道支援活動論等を始めとし、途上国での海外研修やプロジェクトマネジメント等の理論と実践を融合させた体系的なプログラムを構築した。

実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと

本研究科は国際政治・国際経済・国際コミュニケーションの3専攻からなっていたので、これらを横断するプログラムがそれらを包括して、広い視野を持てるように、かつ実践的な研究ができるように注意を払った。また途上国での海外研修では、現地の大学生と共同で社会活動を実践し経験を積ませた。

どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか

当プログラムの実施により、国際的な場で社会貢献をするための潜在的な意思はあるが、それを実践するための知識やスキルを身に付ける場や機会がないと不満を持っていた学生や社会人の需要を満たすことができた。特に、現場で活躍している実務家が担当する科目群は単なる一回形式の講演とは違い、経験に根ざしたシラバスによる体系的講義が提供されたので、院生の理解と意欲を高めるには極めて有意義であった。この結果、自らの将来を切り拓く筋道が見え、就職面においても将来を見据えた進路先を実現したものを輩出できた。

● 青山学院大学 国際政治経済学研究科

「グローバル・エキスパート養成プログラム」の事例 <人社系>

具体的に何を実施したのか

プロジェクトマネジメントⅠ、Ⅱ、Ⅲは、アメリカのアンドリュース大学大学院との共同開催科目で、それぞれの大学所属の学生に対して各大学が単位の認定を行った。本学のプロジェクト教員がコーディネーターになり、アンドリュース大学の教員との合同授業形式とした。招いた教員は国際NGOにも所属し、途上国で実践活動を行っている活動家兼研究者であり、短期集中で行った。受講生も本院生に加え国内外のNGO活動家や医師、大学院生、研究者等が当科目を履修できる制度を作り、多国籍の集団で実践さながらのケーススタディを実施した。

実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと

世界から受講生が来ると同時に、国内では社会人が短期集中でやらざるを得ないので、土日は午前午後の開講、平日は18:30からの開始であった。しかも、3科目の設定で3週間の連続であったので、学生の体力面等の健康管理には注意を払った。資料が多かったが、一年目は資料代等は取らなかったが、次年度は有料制にして収支面に配慮した。

どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか

多国籍の学生たちからなるディスカッション方式であったので、学生たちは貴重な経験をすることができた。特に一つのテーマを複数の学生間で協業することの難しさと、面白さを感じ取っていた。かなりハードではあったが、学生からは好評であった。なお実践的な英語力の必要性に気付いた学生が多かったので、フォローアップとして語学力アップのための実践的講座を開き訓練した。やはり語学力向上のための支援は欠かせない。

●青山学院大学 国際政治経済学研究科

「グローバル・エキスパート養成プログラム」の事例 <人社系>

具体的に何を実施したのか

グローバルエキスパート人材の養成には、英語力と社会科学の原理論の基礎理解は不可欠である。これに加え実践的な経験を積ませなければならない。限られた期間でこれだけの豊富な内容を身に付けさせるには、組織的なプログラムの組み立てを工夫しても限界がある。そこで当プログラムでは、学部上級学生カリキュラムとの連携を取り、実質的な研究期間を3年で修了できる組み立てを工夫した。

実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと

研究科と直結しない文学部や法学部等の他分野の学生、修士課程入学前の準備段階の社会人、さらには学部留学生等にプログラムの聴講を認め、入学後その科目履修を単位化する工夫をした。これにより実質的な学びの期間を延ばすことができたし、受講生も事前的な受講体験をすることができた。

どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか

中でもきわめて有効であったのは、学部学生の先取り履修制度であった。グローバルエキスパート志望の学生はことのほか学部学生に多く、彼らの学部での学ぶ機会を拡張でき、早い段階から意識と経験を伸長させることができた。この結果、複数の学部から複数の学生が院に進み、研究を実質的に3年間することができた。また、在学の院生にとっても、学部生への指導という二次的学びへの機会を得るといふ、予想外の成果が得られた。